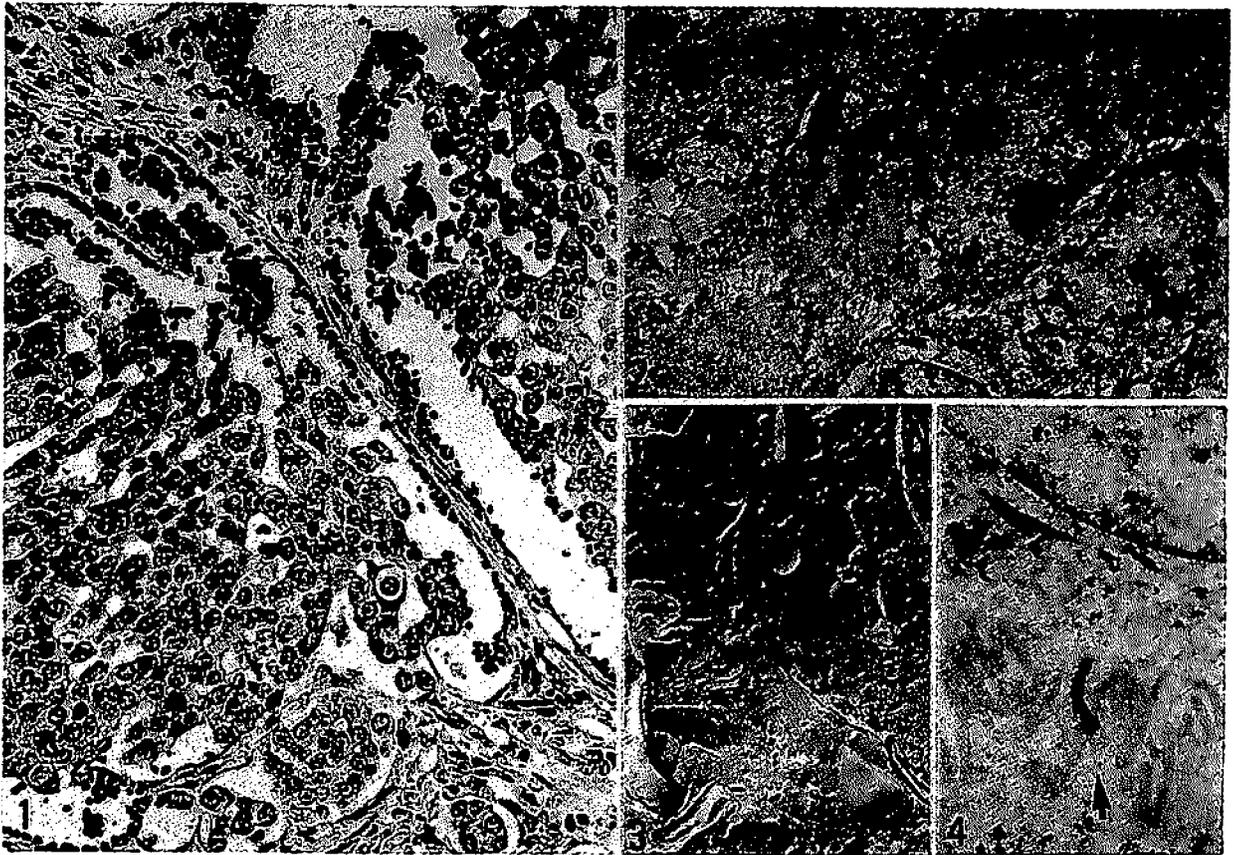


# 牛の皮下組織

家衛試病理第三研究室・山形県中央家保出題 第23回獣医病理学研修会標本No.380



動物：ウシ，黒毛和種，雌，10歳，7産。

臨床的事項：57年3月6日分娩。3月10日頃から下脛部に直径約10cmの硬結が認められ，次第に周囲に腫脹が波及し，約1ヵ月後に左半身全体が腫脹したので，4月21日に廃用殺された。

剖検所見：左脛部皮下組織には多量の漿液が貯溜し，皮筋には灰白色腫瘍組織が認められた。大・小腰筋にも腫瘍組織増殖と漿液浸潤が見られた。左右内側腸骨リンパ節はそれぞれ小児頭，手拳大で髄様腫脹を呈し，壊死および出血巣が散在，腎リンパ節は鶯卵大で灰黄色髄様となっていた。卵巣周囲の結合組織には数個の鶏卵大ないし手拳大の腫瘤があり，腎周囲脂肪組織には鳩卵大の腫瘤が認められた。

組織学的所見：腫瘍細胞は皮下，骨格筋，腫瘍，肺の血管内に腫瘍細胞栓子として認められた（写真1）。おかされたリンパ節においては，リンパ洞および周囲のリンパ管内における著しい腫瘍細胞増殖があり，しばしば皮質はほぼ完全に腫瘍組織に置換されていた。これらの腫瘍細胞はシート状ないし索状の増殖を示し，時々壊死や器質化が見られた。核は円形ないし楕円形で，クロマチ

ン網は比較的繊細でやや明るく見え，核仁は数個で目立たなかった。細胞質は多角形，好酸性でしばしば突起を持っているように見えた。大部分は核・細胞質比の大きな細胞であったが，一部で胞体の豊かな大型細胞が認められた。核分裂像は頻繁であった。

電顕的にクロマチン凝集は軽度で，細胞質にはtonofilamentが認められたが，小器官の発達は悪かった。細胞質突起が多数あり（写真2,3），しばしば細胞間橋を形成しており，時にはtonofilament-desmosome complex（写真4，矢印）も見られた。

tonofilament，細胞間橋，細胞質突起の存在は扁平上皮癌における特徴的な所見であったが，扁平上皮癌はさまざまな部位から発生する可能性があり，原発巣を同定することはできなかった。腫瘍の増殖部位，増殖態度はこの腫瘍が未分化なものであることを示していたが，このことはtonofilamentの発達が悪く，desmosomeの数があまり多くないという超微形態学的所見によっても裏づけられた。

組織学的診断：未分化扁平上皮癌。